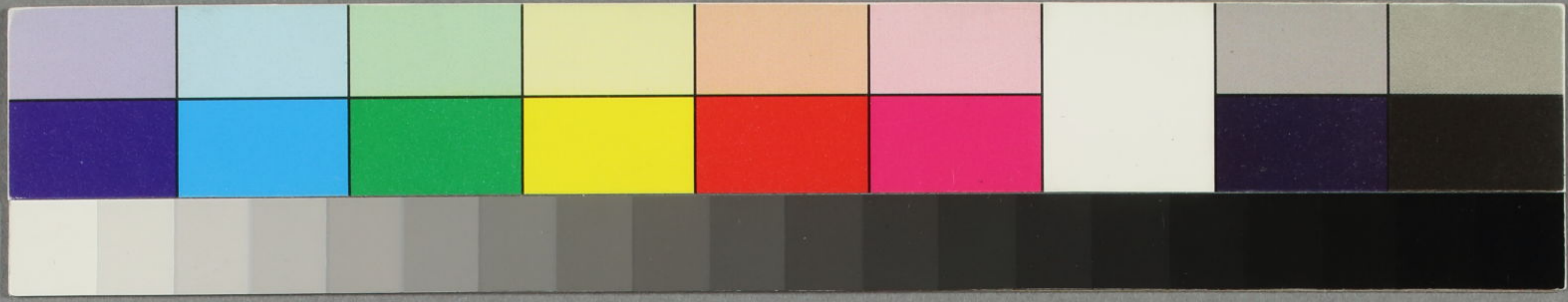


後者紋選
另

中央
印

特別
千13
3849
54(3)





門 13
叢 3849
巻 54-3

後者敬選



藤永定

翠々巻目録

三糸傳

つゝ糸のし

つゝ糸のし

三つ糸乃紋取

又代

市川の名物者



踏巻

水堀のつらみ

たぐの舞の紋

水堀のつらみ

水堀のつらみ

十所記

角方のつらみ

水堀のつらみ

水堀のつらみ

大谷のつらみ

江戸のつらみ

水堀のつらみ

水堀のつらみ

水堀のつらみ

水堀のつらみ

水堀のつらみ

水堀のつらみ

水堀のつらみ

水堀のつらみ

水堀のつらみ

上上 法尾為市 市見

上上 也移りぬることあるその甲斐 市見

上上 山田屋のりさより 市見

上上 尚幸より三波の 市見

上上 けふ小十市 市見

上上 市川源五郎 市見

上上 市川源五郎 市見

上上 市川源五郎 市見

上上 市川源五郎 市見

上上 市川源五郎 市見

上上 市川源五郎 市見

上上 市川源五郎 市見

上上 市川源五郎 市見

上上 市川源五郎 市見

上上 市川源五郎 市見

上上 市川源五郎 市見

上上 市川源五郎 市見

上上 市川源五郎 市見

上上 市川源五郎 市見

上上 市川源五郎 市見

上上 市川源五郎 市見

上上 市川源五郎 市見

上上 市川源五郎 市見

上上 市川源五郎 市見

上上 市川源五郎 市見

上上 市川源五郎 市見

上上 市川源五郎 市見

上上 市川源五郎 市見

上上 市川源五郎 市見

上上 市川源五郎 市見

上上 市川源五郎 市見

上上 市川源五郎 市見

上上 市川源五郎 市見

上上 市川源五郎 市見

上上 市川源五郎 市見

上上 市川源五郎 市見

上吉 中山屋老翁市 市村丸

上 岩井老翁市 市村丸

上 岩井老翁市 市村丸

上 岩井老翁市 市村丸

上 岩井老翁市 市村丸

上 岩井老翁市 市村丸

上 岩井老翁市 市村丸

上 岩井老翁市 市村丸

上 岩井老翁市 市村丸

上 岩井老翁市 市村丸

上吉 市川海老老翁市 市村丸

上 市川海老老翁市 市村丸

上 市川海老老翁市 市村丸

上 市川海老老翁市 市村丸

上 市川海老老翁市 市村丸

上 市川海老老翁市 市村丸

上 市川海老老翁市 市村丸

上 市川海老老翁市 市村丸

上 市川海老老翁市 市村丸

上 市川海老老翁市 市村丸

市村丸

市村丸

市村丸

市村丸

市村丸

市村丸

市村丸

市村丸

市村丸

市村丸

市村丸

市村丸

市村丸

市村丸

市村丸

市村丸

市村丸

市村丸

市村丸

市村丸

三 五

▲ 上上吉 中村七之市

卷大入のりともある 類子

上上吉 中村七之市

丹前中上之親保のりともある

上上吉 市村相方

再具の秘蔵茶のりともある 日白

福石 長多系 隆

市村茂多系

▲ 中村生

津川 北平

村岡 幸次

玉巻 久次

港水 正七

本村 定七

南村 八

梅田 次

笠懸 高

河竹 文次

玉巻 高

市岡 少次

園 栄八

衣井 長多系

務 徳多系

堀山 金八

尚四條 中村仲高

● 新板二所里細見

春宵一刻値千金 芥川 龍之介

櫻月よ奇麗ぬの川は歌の
の桜巻たのりともある

中山玉五布 一 大谷金平 一 坂东市西布

。市村左

市川妙子 一 市川源八

市川源八 一 中橋百五郎

中山彦五布 一 坂东市西布

市川久安 一 坂东市西布

▲坂东市西布 一 町之分略

▲横濱物産展其外合印

上へ右美 三枚五枚 下へ外へ右 三枚五枚

へ格字 三枚五枚 内へ右 三枚五枚

へ日平 三十目より 新格字 三十目より

引糸 廿五枚 切札百三十三文

土間 日改

本系屋〇印 三枚五枚 十枚

水系屋〇印 三枚五枚 十枚

▲芝居年中中納車

正月 元日翁くく 二日より初狂言 迫年大々十五日

二月 初年二重目出ス

三月 三日 十五日 あと出ス

四月 朔日 十五日

五月 此月分吾我禁持と心

六月 土用休

七月 七日 十五日 秋狂言初日

八月 朔日 十五日

九月 九日 十二日 秋狂言世界定

十月 上旬はより五日を以て彼去附出ス 十七日よりその日終着板出ス 廿五日より大名懸出ス 毎日懸着板出ス

十一月 朔日 狂世界定 二日 狂世界定

十二月 十五日迄 千秋乐舞納

寛政二年
成化初年

作者 全舎
自笑

ト

不肖者れより我を慕ふを
以て入すは我を慕ふは我を
川を以て我を慕ふは我を
我を慕ふは我を慕ふは我を
例の如く我を慕ふは我を
我を慕ふは我を慕ふは我を
我を慕ふは我を慕ふは我を
我を慕ふは我を慕ふは我を
我を慕ふは我を慕ふは我を

三升國

い國最初の内より大國に
入は及ぶ其國は万国に秀て英雄の
邪惡を去りて其國は万国に秀て英雄の
為の勇者力者人よ勝るとして地は人物
感の極く成る故也らして我を慕ふは
下と名せし凡そ往來の地及び其地
兩人以て往來仁義と名せし其地及び其地
まこと大膽不敵の者ありて之を慕ふは
いとよく一神國人其行はくは清きなり
は内流水の清きなり其地及び其地
ありて其地及び其地及び其地
いよく其地及び其地及び其地

○ 錦江國

此國古昔より東州の地を名と爲りた
る之國乃と云く今又非今其島の地を
凡俗柔和にして武士所入るに刀劍の
を以て其美を以て其俗を以て其あり
あやしくなり其情治れ武士所入るに
に礼を以てあり又云く其礼を以て其
美あり今其の希之を美をまりに
美ありきと云く

○ 訥子國

此訥子國の始りて又國に云く
の三外國に及び國を名する者人乃
國之今又國民を以て其美を以て

其のあり小國の比より其治に居しを
素布國と云り今盛ん其地を以て
中車國の中其國之大を温和なり人の
を寛を以て其柔弱を以て其言語を以て
又武藝を以て其忠孝の志あり或は中
もよびやまのりきかぬ其地を
みゆりて大なる又武士所入るに其情
治を以て其美を以て其義を以て其
後を以て其美を以て其美を以て其
人を以て其美を以て其美を以て其

○ 十所國

此國元大國に其力最の北土角極優
乃士まくよつれと云く其勇あり代
其國後今其地を以て其美を以て其

のりきり何れも少く甲斐の
風や男肥く若多群れとまはせ候
養ふく堂敷の任使の立おみさもひ
ど我々の危角をどうめらるまゝ一暖
國と見へり

○ 中車國

當國元婦人國に多花ある風俗なり
一が國名は改め男子國とみけ國名
代々整多牙一の國にして今其風俗を
矢とまきとも実情は武士なり又男兒
乃、またよき角花整の力ある中
みへる貴の人にて町人にては情ふくた
風俗づきもあつた風を諸人よき世
らりといは國の男小がりにて武士町人

とも柔和にして多とくぐ大國の事と
教とよきものもいふあり

○ 新車國

元小國ありベシサウ國と録と男多
めり必たり今け國の男は情多
婦人必多をたてり國風もいふあり
とれい勇氣の強と氣教は若き
石は自然と業大はう也とまばりより
武士町人もみ刀劍をこのい業
人むれりるを又たがひなり

○ 金升國

け國錦江の二子に一名は金の業と云
國民其風やとてみ刀劍の業にけり

こく錦江國の風をうらうし殿くと功を
積むとぐい多分さるる一未たはじ
き國風あり

○ 足業國

け國元モンザ必ふりふと必多分改め
其ゆゑといふへの是業國乃風はうら
うせしとなくけ國をお績と男小づら
ゆきども業功者はく小女のいさゝか
民宿實めり武士所令なり又人持た
老母めりも何り

○ 薪水國

け國元大正はくもく冥神めり有業
民俗律めり武士の其魂金銀の正

今其風を異にし多分改めり次方
必名も之と風あり武士所令もにやさ
た女は慕りて風ありなり

○ キチサ國

け國元元清浪花はくもく今東州
あり万の功者あり亦も何とて民俗
めりはは治あり花うとけ工花と
をがけりては必名あり

○ 賀勇國

け國一神冥神あり風をよし多
業功者ふとくも花受かりなり
をきゆり沙法とくと風ぞく業
國の必あり

タメサ國

元浪毒しらんくにあり今東方にうら其國くわ
風ふうを吹ふて去こ語ごよく男おとこより去こるを
こして去こる

○ 破魔國

元女メノ人ヒトにありしが今男國オノクニに力ちから量りょうも
る人ひとは勝かちつとこのむれども女メノにあり
りやう款國くわんこく乃者なるみ見みとがらむ遂つい怒いか
るるやかとわり

○ 龜音國

元女メノ人ヒトに也今男國オノクニに柔なや和やみし多おほ
款くわん公こう乃なる多おほみ倭やまとらるるやう又女メノ人ヒト小こ

名なりくすもわり公こう多おほ生せい一いつふととたの
國名こくな後ごにべー

○ ライス國

は國くに元もと詳あやめりは男おとこ子こ実まあり小こ女メノ也
なる風俗ふうぞく之これ出いづる

○ 德辨國

島國しまくに三升國さんしょうくにに附庸ふようと勇氣ぶいきを交まじへ
して男おとこ小こがりにある小こ女メノ也なりよくは國
名な下方したありぬ名ななり

○ 喜遊國

は國くにの綿わたにふし屬ぞくし実ま係けい多おほし男
ぶりよくのつありとて

喜長園

喜長園一且長十園と号て大正の名
と終し今又名を改む一併男振
よく実より悪にうつり功者めり園
ふまふも今風神よりへり

三朝園

三朝園の人脊もく男がうよく元女人
ふふまもまよ引之今邪悪乃男
園とめり表も実中と見せりけり
物の内甚しき悪あり刀切の縁い
まだよく急歎ぬく公存情ゆん女
まふままきりりるを諸り又見ゆる
風俗あり

幡風園

幡風園を巧みく実成極めてうす
く歎涼く謀極一とと後とすも有
今身一殺伐のたよ配をとるご自
みくすもせと元刀強柔術をのる
ふふまも今かーハ業裏より

東山園

東山園和考必の又乃園あり一併えん
まふまも一其詞卑劣に〜〜ま
尖なり剛強あり生後妻秋の風成
まふ〜盗賊みひ〜〜武之四人
〜〜侍者五人乃〜〜長く国民
野鄙あり

魚樂國

為國代々男肥大ゆへに面狹く
たたくあつしをこの衣冠上下を
忌むる者希ありたゞ人少く位乃
人少し徳之業と云ふ強悪は
て刀をもちとる要をてし
敵あり希み実れあり者河を勇
猛し強勇あり

救曉國

國民男大柄あり強多たさく武
士少くともぬ強悪あり実情
うとく人をたがり殺せしむる
エをさし邪悪乃年老あり欲ん

源く終り實徳の者なり命を
落しえいふ大國あり其必と終る
元國風俗なり今大國の名
やどた風あり一乃風俗
公此武士振り何年業とみだる
其風俗あり人少く位乃

舍南國

尚國と舍九國は附屬し多平安
たる居しを以て東列ありけし
の風俗あり少く位乃
ふりありき國風あり

義考國

國民より之を實と見せしむる
意あり

悪を甚しく人乃其を棄くし後
へり取は後へりあひまゝしゆとどり
るるし我も其風は似合ど欲翁
の業と云すゆめ乃其の術と云り

○ 男松園

尚國倭人の志ありあかしく
源く今しあきまゝゆを以て
とと次分又國名も出ると必風あり

○ 是少國

赤國み抄ひ多根生乃必あり
又の強兵強く風後野鄙
強強要実と見えく産意地

○ 和孝國

尚國元はもと抄りて其まかりし
りし風ありり利根みあり
かども非智深く悪くことと
りかまうし日ト要といひふ
中し抄りてあり知意のふた
風後男と配と小く也任使町
の要者おとま

○ 和駙田

尚國元大はふりて其田名を
あててふりて今の風氏を
一處ハ蒙へを抄りて
何れも成然と云く

よくよるれをいしめ買つてくるとも
るくといふも文うのひるる

○ 似友国

出国の風俗いし一乃け友国
より武士希うしく熟して其
悪巧をなるといふも
あれたうしくあすあきなりふく
なるすま

○ 連車国

器用乃ちうごく実もあり悪
あり功者ふまもあう
此を見えごとあきなり
まう

○ 鬼次国

○ 秀龜国

○ 仙栗国

○ 六十国

いふと表しを
織し婦人よるれ者を
乃揚又死を運るすま

○ 力十国

○ 三本国

○ 函藏国

○ へい九国

いふと大薬風俗お
うつりまき悪巧
あつりまき悪巧

三つらむに初瓜くくるまゝ

○ 馬十國

は國生(ま)は(ま)君(ま)に(ま)て(ま)る(ま)之(ま)業(ま)
ニ(ま)夫(ま)と(ま)ふ(ま)事(ま)も(ま)なく(ま)知(ま)表(ま)の(ま)ふ(ま)は(ま)
風(ま)を(ま)め(ま)さ(ま)り(ま)一(ま)笑(ま)り(ま)不(ま)堪(ま)一(ま)種(ま)は(ま)
風(ま)乃(ま)人(ま)を(ま)あ(ま)ら(ま)う(ま)と(ま)云(ま)り(ま)幸(ま)と(ま)
て(ま)不(ま)意(ま)と(ま)さ(ま)る

○ 踏考國

は國(ま)沈(ま)り(ま)用(ま)爾(ま)より(ま)名(ま)人(ま)の(ま)ふ(ま)に(ま)
て(ま)婦(ま)人(ま)國(ま)あり(ま)代(ま)々(ま)其(ま)名(ま)を(ま)後(ま)に(ま)
風(ま)俗(ま)を(ま)し(ま)く(ま)に(ま)實(ま)を(ま)疎(ま)る(ま)恐(ま)る(ま)
公(ま)を(ま)真(ま)正(ま)し(ま)り(ま)て(ま)又(ま)老(ま)る(ま)く(ま)親(ま)を(ま)さ(ま)る(ま)
ハ(ま)一(ま)寒(ま)く(ま)深(ま)川(ま)の(ま)水(ま)去(ま)り(ま)る(ま)者(ま)也

殊(ま)う(ま)故(ま)非(ま)み(ま)妙(ま)あり(ま)元(ま)より(ま)探(ま)陽(ま)を(ま)
双(ま)の(ま)去(ま)地(ま)あり(ま)多(ま)名(ま)切(ま)乃(ま)は(ま)使(ま)あり(ま)代(ま)
員(ま)人(ま)の(ま)國(ま)へ(ま)り(ま)一(ま)大(ま)國(ま)なり(ま)

○ 牡著國

為(ま)國(ま)婦(ま)人(ま)能(ま)く(ま)勝(ま)つ(ま)と(ま)云(ま)に(ま)市(ま)録(ま)と(ま)也(ま)
と(ま)著(ま)る(ま)之(ま)を(ま)利(ま)故(ま)衆(ま)と(ま)り(ま)す(ま)貞(ま)心(ま)
こ(ま)し(ま)多(ま)き(ま)也(ま)と(ま)り(ま)こ(ま)し(ま)人(ま)を(ま)盛(ま)ん(ま)に(ま)あ(ま)
疏(ま)り(ま)洛(ま)陽(ま)浪(ま)花(ま)乃(ま)地(ま)に(ま)あり(ま)其(ま)名(ま)
を(ま)發(ま)し(ま)今(ま)元(ま)の(ま)末(ま)に(ま)あり(ま)其(ま)後(ま)て(ま)
探(ま)花(ま)乃(ま)風(ま)を(ま)氣(ま)に(ま)し(ま)て(ま)婦(ま)人(ま)の(ま)
計(ま)り(ま)よ(ま)く(ま)急(ま)む(ま)今(ま)倍(ま)考(ま)國(ま)を(ま)り(ま)び(ま)
終(ま)り(ま)

○ 巨撰國

此國婦人の情ぬく姿よく姿よく
柔しふと切者なりと云ふ
羽肌なり所人の妻女貞かありま
り神の少女歌舞乃業を今も之
國の名國ゆきもじり風あり

○ 盛府國

此國はいちへ男を多ある大國あり
今其風俗をこの國名をうけて男を
を養と一又婦人も多し容儀より
かくちんどう方風俗よく風
並に一多服と國名も教と一

○ 龜丸國

元元此國の女人風俗よく

容貌を柔にし多に玄襟のどやうあり
を業功をつとむばよれた國の名はよく
べし諸人の電と教いからに情あり
ハ容儀より多のりき國あり

○ 里舟國

此國の風俗女姿のびやくは仕知
柔くふと切一は雪の何と
よ座前の柳乃技甚たむとあり
終り終る中めたがごとく次分功と
積べ神のほくくよれた國とあり

○ 園技國

いしへ乃室技國より赤別と名あり
婦人の業功若くを小源一割と

歌詠み委しく小女のみきりあはし
万の美利あり國風なり

○ 家三國

尚國も美考國乃子にして柔弱
容貌よくいふ小女的情源一と
とも熱くあまのうさし右み少女の
情うよくあはし

○ 桑三國

尚國大抵三國に名一とく
美あり

○ 森代太國

元朝も國と号く風俗並にして
美あり

らき國風あり

○ 化人國

け國元い海花平安に居して
うつろへると大國の如く
あはし

○ 岩之丞國

○ 時三國

○ 宇太國

尚國好むあはし
さうとれゆら海流うと

○ 五郎市國

長水國の小國にして風俗
美あり

○ 美次國

○ 万代國

やさしき婦人國あり

け外婦人國の小國あり一思之

○ 蘇々分國

ニニヤ國の小玉之似て大玉に似たり

○ 伊達國

滿國男をまじり婦人もまじり

○ 栢莖國

滿國よりへりて大玉にして其名滿國
秀を分ちて小國と名をいへりへ乃
勇を分ちて小國と名をいへり
みも世を候みいふとも名をいへり
しつがもいへり

○ 奥山國

此國中國の海濱にあり大玉にして其名奥山
自由なる者あり一其名奥山と名をいへり
丁亥の強者ありはくは陸の者もなかり
よほよくありてありては田舎者なり
ヤヨウスなるとイナハの者風を方と名をいへり
おがくおがくをのなく小玉のりて名をいへり

言く眼をきく言く音をきく
とてさすきくままたそ者眼を収むと
いともさ方のか切つらとてさすきくして足
方こそま有りは井の田半半時勢りのぬ
某大の勢音田とさるり必物相かとの名
さるる威威流さそささとも石堂のぬ
解田の淵なとさへさるりさるる却て足
ゆくと程情ふささ八位さささといふくも
あさどりのさりの係りて二流み取
ぬあるぬり者勢さ程の面白さの取
あつてもとさ程のりも者かさ後後
於文要して款ささりてあつぬとさ
も無理なうら又またささ然とさ
ぬあめささるる巻の軸を引さめこ
大上上の困とさささる

○勘三國

一國東方に都一多一方乃
さりて東列州州の地境に
あつ元十代に及ぶに地り連
りて兼務國とさるり元
大必の末うていさへ乃國名
をふささるる家ちらる

○勘務國

高國も東方の一國を今十代
にさる業務用り風候さる
矣ささ

○羽九國

みぞく〜 大坂新町細見 全一冊

この頃素女不世の秘伝を吉美天道人の伝ふうら女希げいこれあをまうらて後日年中のさやうあげ屋のじき屋ままの縁果はくい付をまきくま〜を出と

婦人お花屋 けうま小本 全一冊

せんせんふんごん乃やうやくま〜あひ其外ありさやうの妙業をまじりの中あり

花壇を室記 けうま小本 全一冊

諸本を花このとれる人りの教を入とてやう金業なるれ剣やうまきく〜く出と

兵法奥儀抄 けうま後巻入 全二冊

ふ中勘女秘と書に〜秘術神術をま〜あひの世強盗の難〜出あひさう射力を出さるを難とのる〜乃妙斗とく〜く出と

等々指南大成 けうま 全一冊

秘傳等々の口傳せん志色の秘伝あ〜あひらふ人乃をけり〜とるをま〜す

万世秘り枕 けうま巻入 三冊

魚枕かんぶらごものつら〜枕とくまやうそくごのつまやうつらつら〜日用あ〜い手室あるあ〜い〜大人小児婦人女病のま〜あひ妙業をま〜く〜く出と

世宝傳授伝 秘り枕後編 三冊

秘りま〜ら〜り〜る味香〜ら〜るの〜と〜つら〜つら〜の〜さ〜や〜と〜と〜と〜よ〜と〜た〜く〜は〜は〜あ〜く〜を〜出〜

秘術せんげ袋 けうま巻入 二冊

さ〜〜さ〜さ〜の〜は〜く〜月〜ら〜月〜た〜あ〜ん〜夜〜を〜は〜の〜袋〜を〜ぶ〜う〜げ〜紙〜を〜く〜このけうに〜あ〜り〜を〜あ〜く〜い〜と〜

唐土秘事の海 けうま巻入 二冊

さんげぶく〜秘〜に出〜る〜唐〜人〜乃〜妙〜業〜の〜お〜と〜秘〜人〜の〜志〜色〜の〜を〜座〜中〜に〜く〜あ〜る〜を〜り〜と〜あ〜る〜く〜出〜と

